

学校適正配置の必要性について

1 学校適正配置の取組について

小・中学校は、子どもたちが集団の中で多様な価値観に触れ、協力し合い、切磋琢磨することを通して、豊かな人間性やたくましく生きる力を育む場です。

そのため、本市では、学校に一定規模の集団を確保することや、バランスよく教職員を配置することにより、子どもたちの自立と共生の力を育むことのできる良好な教育環境を実現するため、現在、学校の適正配置の取組を進めております。

2 学校適正配置の必要性について

項目	小規模校		適正規模校
	良いところ	工夫が必要	良いところ
学習面	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細やかな指導が行いやすい。 学校行事において、児童生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 児童生徒数、教員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習など、多様な学習・指導形態が行いにくい。 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 中学校の各教科の免許を持つ教員の配置に配慮が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの児童生徒が集まることにより、普段の学校生活の中で様々な価値観に触れることができる。 児童生徒数、教員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習が行いやすい。 小学校の専科教員による多様な学習・指導形態を取りやすい。 運動会や学習発表会、文化祭などの活動で喜びや達成感を共有できる。 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒相互の人間関係が深まりやすい。 異学年間の縦の交流が日常的に生まれやすい。 児童生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細やかな指導が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互評価等が固定化しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス替えを行うことにより、新たな人間関係づくりが可能となる。 集団活動を通して、信頼、協力の大切さを理解しながら、友人関係を広めることができる。
部活動等	<ul style="list-style-type: none"> 部活動等において、児童生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。
学校運営面	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が取りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員数が少ないため、経験、教科などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員配置が充実し、子どもの個性や意欲に応じた教育活動がより展開しやすくなる。

※文科省HP掲載の中央教育審議会・初等中等教育分科会「小・中学校の設置・運営の在り方等に関する作業部会（第8回）」資料を参考に作成。